水前寺江津湖公園利活用・保全計画の見直しについて（骨子）

みどり政策課　資料　都12－①

1　現計画の概要

●目的

水前寺江津湖公園は、豊かな地下水と自然環境を有する熊本の象徴であり、市民の憩いの場として親しまれてきた。しかし、自然環境の保全、歴史・文化資源の活用、施設の老朽化や多様化する市民ニーズへの対応など、様々な課題に直面している。そのため、公園の価値を再認識し、保全と利活用の両面から課題を解決し、自然と人との共生による持続可能性を確保しながら、この貴重な財産を次世代へ継承すべく本計画を策定するもの。

●計画の対象区域

水前寺江津湖公園のうち、公園として供用している区域（126.9ha）

●計画期間

令和2年度（2020年度）から令和11年度（2029年度）までの10年間

2　これまでの実績と課題

●これまでの実績

【保全】
- 地下水かん養対策等により、地下水量を保全し、江津湖の湧水量増加に寄与
- 指定外来魚の駆除による低密度管理

【利活用】
- 全国都市緑化フェアの開催（R4.3.19~5.22）
- 民間の力を活用した利活用の推進

民間によるイベント開催

●課題

【保全】
- 外来水草の繁茂
- ヘドロ等の堆積
- 指定外来魚の駆除
- 科学的根拠に基づく数値目標の未設定

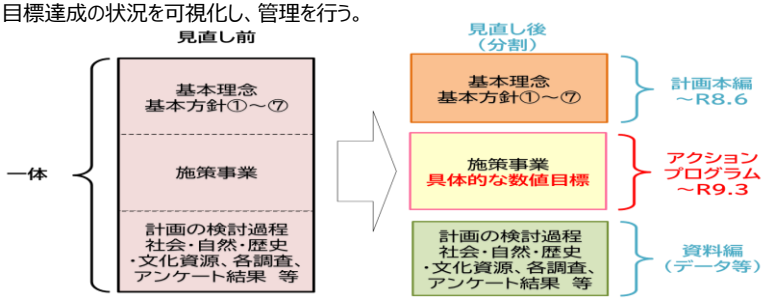
【利活用】
- 公園利用者数の減少
- 大規模イベント等との連携
- 公園周辺の回遊性
- 歴史・文化・観光的価値の発信
- 更なる利活用に向けた官民連携

湖面を浮遊する
コウガイセキショウモ

3　見直しのポイント

●計画の体系について

- 江津湖の環境・生態系の変化に柔軟かつ迅速に対応するため、本編とアクションプログラムに分け、目標達成の状況を可視化し、管理を行う。



●計画期間の変更

幅広い分野にまたがる計画であるため、第8次総合計画と期間を合わせる。

現計画　：　令和2年度（2020年度）から令和11年度（2029年度）までの10年間
改定後　：　令和2年度（2020年度）から令和13年度（2031年度）までの12年間

●基本理念と基本方針の見直し

基本理念については、長期間かけて実現していくべきものであることから変更せず、基本方針について、情勢の変化等を踏まえ見直しを行う。

4　基本理念及び基本方針

●基本理念

「湧水により育まれてきた自然と人との共生」の継承

●基本方針

これまでの実績や課題を踏まえ、以下のとおり見直しを行う。

現計画

自然環境・歴史文化資源の保全
- 基本方針①　大地が育む豊かな水環境と水循環の保全
- 基本方針②　生物多様性の保全と自然と人との共存・共生
- 基本方針③　歴史・文化の活用と次世代への継承
- 基本方針④　江津湖の資産・資源の継承と発信

公園の利活用
- 基本方針⑤　江津湖のポテンシャルを活かした空間の創出
- 基本方針⑥　適切な公園経営と次世代への資産運用
- 基本方針⑦　持続性のある運営手法と担い手づくり

見直し（案）

自然環境の保全
- 基本方針①　清らかで豊かな地下水と健全な水循環の保全
- 基本方針②　生物多様性の保全及び自然と人との共存・共生
- 基本方針③　市民協働による自然環境の保全・再生

公園・歴史文化観光資源の利活用
- 基本方針④　多様な主体・イベント等との更なる連携
- 基本方針⑤　ポテンシャルを活かした空間の利活用・回遊性の抜本的向上
- 基本方針⑥　歴史・文化・観光的価値の継承と活用
- 基本方針⑦　持続的な公園経営・次世代の担い手の育成

5　事業イメージ　（詳細は今後アクションプログラムで検討）

自然環境の保全

①地下水量の保全、河川や地下水の水質の保全、健全な水循環に関する意識啓発・醸成

②在来種の生育環境改善、外来生物対策、生物多様性保全の普及啓発、治水対策・防災の取組

③自然環境の魅力発信、担い手の発掘・育成、環境保全に参画するための仕組みの構築

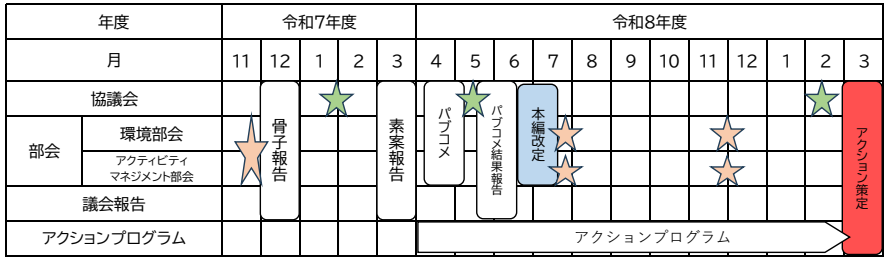
公園・歴史文化観光資源の利活用

④開園100年に併せた動植物園との連携、ビュースポットの設定

⑤江津湖回遊船、シェアサイクルの導入検討、園路等のバリアフリー化、休憩場所の追加等

⑥看板・アプリ等多言語化、サイクルロードの設定・整備、歴史・文化巡りイベント等

⑦官民連携による公園経営の検討、キッチンカーなどの更なる拡充、駐車場拡充及び運営方法の検討、広報システムの拡充

6　スケジュール

都市建設局、環境局及び経済観光局を中心とした、12局27課でプロジェクトチームを組織し、緊密な連携のもと、一体となって計画の見直しに取り組む。